

すなお

令和2年3月号

おやのことば

成るも神成らんも神、成らん神なら要らん、と言うやろ。さあさあ万事神一条の道という理を治めてくれ。

明治二八年五月十三日



最近の報道の最初は「新型コロナウイルスについて、」から始まります。中国、日本、そして世界へと広まり、世界中の人々が感染を防ごうと努力していますが、未だに終息の兆しは見えていません。今後、どこまで広がっていく治まるのかは誰にも分かりません。

こうしたことから目に見えないウイルスに対して、私達人間の出来る事は本当に限られていると思えてなりません。まずはその事に気づくことが大切です。医学や科学が進歩すれば何でも出来るように錯覚をします。でも、本当は分からないことばかりなのです。

今後、どんなことが起こってくるのか、どのようになっているのか、このことも何も分からないのです。

【成ってくるのが天の理】と教えていただきます。神の思惑のままに現れてきますし、治めてもいただきます。(陽気ぐらしを見て共に楽しみたい)と仰せられた親神様の思いからは程遠い今の世界をしかと反省し、その上で世界の治まりを日々祈り、働いていただける心の種をしっかりと積み重ねていきましよう。

会長

すなお (立教183年3月号)

通 巻 No.716
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2020.3.16
責任者 二宮英治

かっていなかったため、神様のことを急にやめるなんてできない！と反発しかけました。

ところが会長さん奥さんに相談したところ、「お嫁に行くとはそういうことだ、これは信代のにおいがけだよ」とお諭しいただき、そのような家へお嫁に行くことこそが神様のくれたにおいがけのチャンスなんだと気づかされたのです。

それから日が経ち、入籍前の先月には義父母が揃って、この瀬戸路の教会へも来ていただきました。私が生まれ、育てていただいた場所を実際に見てもらうことができたこと、会長さんのお話を真剣に聞いてくれたこと全てがありがたい気持ちになりました。「信代さんがこんなに優しい人に育ったのは神様の教えがあったからなんですね」と言っていた時に心から嬉しく思いました。

また不思議なことに、夫の父方の祖母は戦争の頃に香川大教会へ疎開していたそうです。そんな頃から天理教との繋がりがあったのかと驚きましたし、やはり深い縁があったんだなあと思う出来事でした。

今後、形としては神棚をお祀りできませんが、会長さんからすなおの原稿をつとめなさいと教会へ繋がる手立てをいただきました。周りの環境や思いに流されてお道の心から遠ざかってしまわぬよう、心の芯は揺るがすことなく、日々感謝の気持ちで通らせていただきます。それが私の信仰への決意です。

教会ニュース

行事中止の連絡

このたびの新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ為に、種々の教内行事が中止になっていますのでお伝えします。

＊本部学生生徒修養科（大学の部）＊学生春のおちばがえり＊中和団少年会おつとめまなび総会＊本部婦人会総会と前日の記念パレード
今後も感染の状況に応じて様々な行事が中止や延期になる可能性があります。その際は分かり次第連絡をしますが、気になる方は事前に教会へ確認の電話を下さい。

瀬戸路分教会エコプロジェクト ～太陽光発電状況～

2月17日検針で1,164kWh発電し、46,094円の売電金額となりました。累計112,927kWh、4,421,857円の総売電金額となりました。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

2月には56,005円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



徳の世界

鈴 代

遙か80年前に私は生まれました。

記憶は一瞬にして、過去に戻る。不思議とも、ありがたいとも思う。

私が生まれ育った幼少時代は戦争の頃。そして敗戦の翌年に

一年生になった。母の帯を鞆に作り変えて貰って学校へ通った。

教科書も上級生から譲って貰って学んだ。そして下級生に譲る。

日々の生活は、今では想像もできないような質素な暮らしだった。

誰もがそうだった。多少の貧富の差はあっても、そんなものだと

納得して暮らしていたのも本当だった。

現在社会の豊かな暮らしは当時から見れば誠に長者ぐらしである。

ありがたくてもったいなくて、不自由するのが難しいくらいである。

それでも、更に豊かさを求め、わが身の楽しさばかりをを追い求めれば、

やがて親神様のざねんのお心に触れることは免れないと思う。

私たち、お道を通らせていただくお互いは、本当にありがたいです。

目の前の事ごとに振り回されることなく、わが心の掃除をおこたらず、

感謝とお礼の心で小さくてもいい、徳積みの日々を通らせて頂きたい。

モノや形あるものはいつか消える。魂についた徳はどんな環境にあっても

この世終わるまで消える事はない。来世へもつながるからありがたい。

神様のことで苦勞する、人様のことで苦勞する、これほど尊い徳積みはない。

私にできる徳積みは何でしょう。

親神様に喜んでいただける今日を明るく励ませていただきましょう。



ご報告

椿（二宮）信代

この度、ご縁がありまして職場の同僚である椿拓也さんと結婚をしました。今年11月には大阪で式を挙げさせていただく予定です。

結婚を決めるにあたり、自分自身の信仰と向き合うきっかけがいくつもありました。そのうちの1つは義父母とのことです。夫の家はほぼ無宗教と言っていい程の一般家庭です。「信代さんが天理教を信じるのは自由だけれども神棚を祀るのはやめてね」というスタンスで、私は当初嫁ぐという言葉の意味が分

次ページへ